

翻刻 渡部寛一郎日記5・Ⅱ（大正七年七月～七年十二月）

渡部寛一郎文書研究会

（要木純一・竹永三男・板垣貴志・内田融・大原俊二・居石由樹子・小林啓治・小林奈緒子・杉谷直哉・原洋二・本井優太郎・森安章）

摘要

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解説・分析し、近代日本の漢詩文学と政治文化の関連を山陰地域に即して実証的に追究することが本プロジェクトのめざすところである。今回は、渡部寛一郎日記第五冊のうち、大正七年七月から七年十二月の部分を翻刻する。寛一郎が教育界から身を引いた時期のものである。漢詩、謡曲、旅行、家族・親族・友人との交流、歓談に日々を費やしているようであるが、地方政治、教育、経済に対する関心も垣間見られ、その交友関係は、後の、若槻礼次郎の後援会長としての、また、県会議員、国會議員としての活躍につながるものがある。

キーワード：渡部寛一郎、山陰、政治、教育、漢詩

【序】解説にかえて

今回翻刻する渡部寛一郎日記第五冊「大正六年十二月起 日記」に記された一九一八年（大正七）七月から一九一八年（同七）十二月の期間は、七月に米騒動が起こり、全国に波及し、寺内内閣退陣、原内閣成立という、激動の時期であった。それにもかかわらず、それらの記

載は一切ない。なぜ、そうなったかについては、いろいろ考えられるが、今は憶測を避ける。翌一九（大正八）年からは、市議會議員補欠選挙をはじめ、寛一郎は政治に直接関わって、日記の政治関係の記述も頻繁になる。次号でまとめてこの間の情勢を解説する予定である。

この期間は、いろいろな不安を抱えながら、悠悠自適の隠居生活を

送っているようで、学問、詩作、謡、多くの交友で毎日が埋まっている。このうち、漢詩については、七月二十四日の条に、

「此日、后三時ヨリ、村上氏ノ為、臨時吟会ヲ臨水亭ニ開催セリ。出席者耐雪、井蛙、活處、廻瀾、秋圃ト余及主賓外一名トス」

とあるように、村上琴屋を送別する詩会に参加している。村上琴屋(一八六一〜一九三二)は、明治・大正期の官吏。全国に名を知られた、山陰の漢詩結社剪淞吟社の創立メンバー。この年まで、隠岐島司を勤めていたが、松平家に請われて、松平家の家令となった。この時の参加者の漢詩が、横山耐雪編「剪淞詩文」第七編(大正七年十月)におさめられている。附録として、その梗概と寛一郎(号桃蹊)の作品を紹介した。

(要木)

〔凡例〕

一、本号では、「渡部寛一郎関係文書」(松江市新雑賀町・原洋二氏所蔵)から、渡部寛一郎日記第五冊の一部を翻刻する。第五冊には、大正六年十二月一日から、大正九年一月一日までの記事(途中省略有り)の記事が収められている。今回はその約四分の一に当たる大正七年七月一日から、同年十二月三十一日までの記事を翻刻した。

一、原本は、薄茶色厚紙表表紙、裏表紙、原稿用紙(「修道館」の三字が中心下に刻されている)を綴じ合わせた冊子である。原稿用紙は、縦罫(朱線、上下余白にメモ記入あり)十二行、表裏計二十四行を真ん中で半分に分けて折っている。縦約二五センチ、横約一七・五センチ。

一、読みやすいよう句読点を附した。句読点の付け方には統一的な基

準はない。原文にも句読点が付けられているが、必ずしも本稿のものとは一致しない。

一、合体字はカタカナ書きとした。

一、漢字は原則として常用漢字体を用いた。

一、不明文字・判読不能文字は、字数に従い、□□とする。字数が不明な場合は、「」を用いた。

一、本文は、削除や後補が錯綜しているが、後補したものを含めて翻字し、削除や訂正は、必要と判断したもののみ、削除記号を付して、訂正前を示したり、注記をしたりした。

一、適宜【】を付して注記を補った。

一、原文の改行は、特に必要と認めた場合以外は追い込みとした。逆に読みやすいように、改行した部分もある。

一、本文の文字サイズは同一とした。小字注は()を加えて示した。内容を捕捉することに重点を置き、縦書き・横書き・見せ消ち・文字の大小・改行・字下げ、空白など、必ずしも原文の体裁の通りではない。

〔本文翻刻 大正七年七月より十二月〕

七月

一日 半陰半晴。湿熱甚シ。

大藤弁護士、片寄伴之助氏来訪。久闊ヲ叙セリ。

二日 晴。午後、大雷雨。一時間餘。市内松崎水亭付近落雷セリ。

午前、内務部長手塚氏、南洋民政部長二栄転二付、其宅ニ訪問、祝詞ヲ述べたり。帰途、山本銀行ニ立寄、当借70元利皆済、帰宅。

三日 半陰半晴。

午后、佐藤氏ト同伴、足立氏謡曲稽古場ニ出席。

四日 午前中、降雨。 午后、晴。

京店山本漆器商店ニ行き、用ヲ弁シ、帰途、下女お増方忌引ノ慰問ヲ為シテ、帰宅。 午后、午睡時ヲ利用シ、隣家ニテ謡曲（松風・景清）復習。

五日 晴 【上欄外にクあり】 此日、藤波主事ヲ付属小学ニ訪問。

矢田寄付金上納方ヲ依頼シ置キタリ。

六日 晴 午前、田中莊氏来訪、

七日 晴 午前、村上氏ヲ其宅ニ訪問セシモ、未タ帰来セス。 依

テ、井上氏ヲ其宅ニ訪問シ、此日午后吟会ノ事ヲ打合セタリ。 午后三時ヨリ、悦笑軒別荘ニ、剪淞吟社例会開催、会者、耐雪、井蛙、活処、秋濤、廻瀾、秋圃及余ノ七人トス。 午夜ヲ過テ帰宅。

八日 晴后曇、蒸熱甚シ。 【上欄外、】

九日 晴 蒸熱甚キコト如前日。 本町佐藤氏子供死去ノ為吊訪。 帰

途一二用ヲ弁シテ、帰宅。

十日 午前十時過ヨリ降雨沛然、翌朝ニ至ル。 此日、午前、西光寺ニテ開催ノ佛教講演会ニ傍聴。

十一日 陰雨 終日在宿。 ま起不例。 勝部醫師来診。

十二日 夜来風雨激甚、出水ノ傾向アリ。

十三日 天気陰鬱、出水、細田表細道不通。 【上欄外、】

十四日 陰鬱 雇女ヲ使役シ、庭園其他草取ニ従事。 午后、村上琴屋氏退官并松平家々令新任挨拶ヲ兼テ来訪。 □氏種々談話ノ末、同氏ノ挑戦ニヨリ、圍碁数番夜分ニ至ル。

十五日 天気如前日 静養。 午后、佐藤氏ト謡曲稽古場ニ出席。

十六日 天気如前日 午后、濱田戸津川善吉氏并坂井友義老母来訪、此日、在朝鮮孫女静江病氣ニ付、ま起武内神社参詣。

十七日 曇 午前、佐藤氏ト謡曲稽古場出席。

此夜、高橋氏来話。

十八日 夜来降雨甚布【はなはだしきとよむか】。 午前、富山氏訪問、一曲復習。 午后、鶴島宇一氏中沢氏依頼之件ニ付来訪。

十九日 午前晴 午后降雨【上欄外、】 中澤氏依頼之件ニ付、細

田猶【？】氏ニ交渉。 午后、更ニ鶴島氏ニ打合セタリ。

廿日 晴 土曜【用の誤り】入。 九十二度以上（此夜、灘町有志総代佐藤□氏外三名来談）。

早起。 戸津川善吉氏ヲ其旅館皆美館ニ訪問シテ、過日ノ来訪ニ答礼シタリ。 中沢氏依頼之件ニ付、細田氏遂ニ調印ヲ拒絶セリ。 小人ノ心事愍ムヘシ。

廿一日 晴 隣家佐藤氏方ニテ謡曲稽古、此夜七時ヨリ臨水亭ニテ

開催スル村上琴屋氏送別会ニ出席。

廿二日 午前晴 后雷雨

廿三日 晴 【上欄外ク】 午前、美保関禰宜清水真三郎氏来訪。 灘町有志者依頼ノ件ニ関シ交渉ノ結果ニヨル。

廿四日 晴

此日、后三時ヨリ、村上氏ノ為、臨時吟会ヲ臨水亭ニ開催セリ。 出席者耐雪、井蛙、活處、廻瀾、秋圃ト余及主賓外一名トス。

廿五日 晴 南風暑甚。 93、 此日、木次石橋松子母子出松来訪、宿泊。

廿六日 晴 92、風候暑氣前日ニ同シ93、【上欄外、】 午前、田中氏来訪。

午后六時ヨリ、井上留五郎氏招飲ニ応シ、往訪。同席者ハ、村上、有澤兩人ニテ、囲碁ヲ試ミ、午夜ヲ過テ帰宅。

廿七日 晴 93、南風暑気甚シ 此日、安濃郡太田町出身、当時、

神戸ニテ運送業経営者、楫野秀雄氏(東尻池町)、在神戸謙一郎ト、

商品取引上懇意ノ関係ヲ以テ、来訪。灘酒五升入宅樽持参セリ。此夜、

河本芳藏氏ノ招飲ニ応シ、松崎水亭ニ赴キ、十一時過、帰宅。

廿八日 晴天無風 酷暑92、此夜降雨アリ

午后四時過、河本芳藏来訪。談話二時ヲ移シテ辞去。此日、久保田

竹田助次郎氏、図書株式会社設立之件ニ関シ、来話。此夜八時過、上

汽車ニテ村上壽夫上京セシニ付、停車ニ見送レリ。

廿九日 晴 92、大谷清志翁、喜多流謡曲家栗谷、瀬藤両氏来遊之件打合ノ為、来訪。

卅日 晴 92、【上欄外、】 夕刻、森有禧来訪。

卅一日 晴 ヶ

八月

一日 晴91、此日、亡弟森豊之助(法号 豊原院森堂芳林居士)廿五

回忌法要施行ニ付、午前、芳子同伴、清光院ニ参詣。帰途、森氏ニ立

寄、午時ノ齋食ヲ喫シ、三時過、帰宅。

二日 晴90、江田氏、謡曲家栗谷氏一行来松之件打合ノ為メ来訪。

来四日、大谷氏方ニテ相談会開催ノコトニシテ、辞去セリ。依テ、富

山、佐藤二氏訪問、同意ヲ求メ置キタリ。

三日 晴 此夕、森有禧祖父関係、氏ト戸主入代手續結了。祝宴ニ

招カレ、参席。夜半、帰宅。

四日 晴 此日午后、元濱田小学教員笠原氏来訪セリ。此夜、謡

曲家栗谷氏来訪スルニ付、招待之件打遇ノ為、大谷氏方ニテ集会。帰途、京店園山氏立寄、帰宅。

五日 晴 朝餐前、栗谷氏招待ノ件打合ノ為、江田氏ヲ訪問シタリ。

尚、夕飯后、更ニ、大谷、足立、園山諸氏ヲ訪問シタリ。

六日 曇 東北風稍冷 此日終日在宿。夜間、江田氏ノ来訪ヲ受ケ

タリ。

七日 東北風 降雨 此夜、足立氏方集会。

八日 ヶ 此朝、大谷氏方ニテ、江田氏ト会見。謡曲会決定。

九日 曇 此日、濱田卒業生渡部タキヨ来訪。夜間、坂井友義夫妻

来訪。

十日 曇 十二日午后、謡曲会開催ノ件ニ関シ、望湖楼主ニ面会。

十一日 曇 此日、夕刻、江田氏訪問。

十二日 午后 驟雨甚シ 予期ノ如ク、謡曲家元栗谷氏一行歓迎奏

謡会ヲ望湖楼ニテ開催シタリ。

十三日 夜来降雨激甚 栗谷氏一行ヲ停車場ニ見送リタリ。終日静

養。

十四日 曇

十五日 曇 隣家佐藤、青柳、森三氏訪問拜霊。其途次、濱田卒業

生木下ヤスノヲ病院ニ、織田鷹州翁ヲ林亭ニ訪問シテ、帰宅。本年于

蘭盆祭、無事終了。

十六日 曇 早起、謡曲稽古ニ出席。(三井寺)

十七日 曇 早起、同上。(鬼界島) 大谷清志氏来訪。

十八日 降雨甚シ 早起、同上。(松風) 濱田在任中縁故者内田健

男氏来訪、宿泊。学藝器株式会社ノ件ニ付、久保田竹次郎氏来談。此

夜、内田氏麦店ニ同伴、饗応。【麦に草冠。蕎麦か】

十九日 降雨甚シ 早起、同上。(撰待) 伊藤久次郎、堀尾氏来訪。
廿日 曇 早起、同上。(花月、井筒) 内田健男氏八時半下り汽車ニテ出発セシニ付、見送タリ。

廿一日 降雨 早起。(実盛) 午前、松浦氏来訪。午后、おま起事、一雄同伴、墓参ノ為学頭ニ行ク。

廿二日 降雨 早起、同上。(鞍馬天狗) (国栖)

廿三日 曇

廿四日 曇 午后、佐藤半農ヲ訪問。相携テ、織田鷹州翁ヲ林亭訪問。晚餐ヲ共ニシテ、帰宅。木下やすのヲ病院ニ訪問。

廿五日 晴 残暑甚シ 墓所造作ノ為、田根大工来ル。午前、謡曲稽古場出席。帰宅不例、臥蓐服薬。

廿六日 晴 静養、服薬。

廿七日 晴 静養、服薬。目次ス、子東京ヨリ帰来。曳野方近況報告ヲ得テ、大ニ愁眉ヲ開キタリ。

廿八日 晴 此日、子供三人同伴ニテ、塩冶へ出遊。草光まつの氏来訪。服薬、静養。

廿九日 曇 此日、床揚ケ、服薬廃止。天神町山本銀行ニ成相氏訪問、計算。用ヲ済マシテ、帰宅。

三十日 降雨 午后曇 時々微雨 此朝、芳子神戸ヨリ帰来。駅ヨリ直ニ出勤。大工田根、此日迄六人役。

三十一日 曇【上欄外】 神山元那賀郡長来訪。

九月

一日 晴 (二百十日) トシテ、誠ニ好日和 午前病院ニ木下卒業生ヲ訪問、夫ヨリ草光、江田、目次、坂井、花田、神山及ヒ大谷、諸

氏ト織田鷹洲翁ヲ桂亭ニ訪問シテ、正午過、帰宅。
二日 晴 午前、市役所出頭。水道事務所ルテ、増設ノ件打合せテ、帰宅。

三日 朝雨 后曇 田中荘氏来訪。

四日 半晴半雨。

五日 90、学館卒業生、現商船北京丸船長、斎藤齋氏、久々振ニテ帰省セシトテ、来訪。新旧談話ニ時ヲ移シテ、辞去。此夕、五時ヨリ、佐藤半農主催(廣田水亭)ニテ開ケル、織田鷹洲翁歓迎会ニ、陪賓トシテ出席。内田健男氏、石国ヨリ帰坂、途次来泊。大工田根、此日ヨリ父子来ル。

六日 晴 90、午前八時八分発にて、織田翁ヲ見送リタリ。此日、山田覚旦師ヲ、在病院木下やすのニ紹介セリ。此夜、内田氏出發帰坂。同人并斎藤氏ヲ停車場ニ見送タリ。

七日 晴 健ニ発熱勝部医師来診。大工今日迄父子来ル。

八日 雷雨 午前、木下やすの氏ヲ病院ニ慰問ス。大工今日ヨリ一人。

九日 晴 此夜、華崎氏ノ件ニ付、赤松盛氏来訪。大工一人。

十日 晴【上欄外補注「向坂秋稔氏来訪」】 午前、華崎氏ノ件ニ付、成相氏ヲ山本銀行ニ訪問。大工一、石工一。

十一日 晴 中澤秋氏ノ為、戸籍謄本請求ノ為、市役ニ出頭。帰途、森、向坂両氏及白濁本町原文訪問、帰宅。

十二日 陰雨 午前堅町河本氏ヲ訪問セシモ、不在、面会ヲ得ス。此夜、曳野氏一行突然帰松、来訪。一同驚喜シタリ。一行ハ一旦仮旅館一文字屋支店ニ引取りタリ。

十三日 陰雨【上欄外、】 午前、春子ヲ其旅館ニ訪問。同伴、帰

宅。十時ヨリ施行ノ善光寺ニ於ケル乃木將軍七回忌辰法要ニ参席シタリ。

十四日 東北風ニテ陰雨甚シ 早起。曳野夫妻ヲ其旅館一文字屋支店ニ慰問シタリ。此夜、木下氏ヲ病院ニ訪問。

十五日 午前陰晴不定 午後好晴 午后三時、御手船場福島造船所ニ於テ、岡田汽船会社伯洋丸進水式ニ参列。黄昏、帰宅。更ニ春子方訪問。此日午前、木下やすの主人源次来訪。

十六日 午前、市役所会計課ニ出頭。水道増設契上納。帰途、木下やすのヲ一文字屋本店ニ訪問。此日、木下氏ノ依頼ニヨリ交渉シタル灸点師山田、午后三時過、出松来訪セシモ、木下既出発帰郷后ニ付、明

十七日 早朝発松、温泉津ニ向ハセル都合ニシテ、宿泊セシメタリ。

十七日 好晴【上欄外に、】 灸点師山田出発、温泉津ニ向ハシム。田中荘氏来訪。

十八日 陰雨 午前、曳野寄留届之件ニテ、市役所出頭。帰途、曳野訪問、帰宅。

十九日 前陰后晴 此日、古仲秋。

廿日 晴

廿一日 前晴后陰【上欄外に、】 午前、田中荘氏来訪。

廿二日 好晴 青柳、坂井、黒沢三氏訪問。帰宅喫飯。此夜、高橋氏来話。暫ク時ヲ移シテ、辞去。

廿三日 陰

廿四日 暴風雨 此朝、芳子加茂渡部老母ノ凶報ヲ齎ラシテ、同地ヨリ帰ル。

廿五日 曇

廿六日 晴 坂井友義来訪、濱田卒業生石橋キヨノ来訪。此日、一

雄同伴、加茂渡部葬儀ニ参列。夕刻、帰松。

廿七日 曇 坂井友義来訪。午餐ヲ共ニシタリ。石橋キヨノ来訪。

廿八日 曇 隣家佐藤亡母友子命日ニ付、往訪、参拜。

廿九日 陰雨 坂井老母来訪。此夜、高橋氏往訪。

卅日 曇 永江真澄氏来訪。

十月

○【朱色】印風呂立符号、印鬚剃符号

一日 好日和【上欄外、】

二日 好日和【上欄外朱①】 散策ヲ兼、市役所会計課ニ出頭。水道料納付シタリ。

三日 好晴 此日氏神祭礼ヲ機会ニ、曳野良一夫妻并其弟義一ト三人晚餐会ニ招待シタリ。兩人、高橋老母死去ニ付、直ニ往吊。且、此

夜、会葬シタリ。

四日 陰雨 午前、高橋老母法事ニ付、円城【成の誤り】寺ニ参詣シタリ。此日、在米文子、晴子姉妹ノ信書到達。

五日 陰雨【上欄外、】

六日 陰雨 末起事、木次石橋方訪問ノ為出浮、黒沢氏来訪。

七日 陰雨 此日、竹内平太郎氏来訪。

八日 穩晴【上欄外朱②】 加田氏ヲ雜賀学校ニ訪問。芳子松南婦人会入会ノ件ヲ照会シ、帰途、春子方立寄、帰宅。鴫島氏、中沢氏依頼之件ニ付来談。四方醫院治療ノ為早朝往訪。

九日 好晴 四方往訪如前日。末起、木次より帰宅。(日雇 今次

郎)

十日 曇【上欄外、】 濱田卒業生石田某来訪。末起青柳行。八曲庵令次郎)

十一日 陰鬱 早朝高橋来話。末起尚滞在。

十二日 曇 末起帰宅。

十三日 前陰後晴【上欄外朱①】 此日、佐草高本氏ノ案内ニヨリ、松茸狩ニ行キ、夜ニ入テ、帰宅。誠、健二、一雄及下女増同行。

十四日 好晴【上欄外に、】 此夕、田中氏訪問。帰途、春子方立寄。夕飯ヲ共ニシタリ。

十五日 陰雨

十六日 午后晴【上欄外に、】 共進会場付近散歩。

十七日 好晴 河原柳太郎氏来訪。

十八日 好晴 此日、午后二時、松江市制三十年記念祝賀式ヲ母衣小学校ニテ挙行セシニ付、参列。一篇ノ祝辞ヲ朗読シタリ。式后、城山天守臺祝宴場ニ臨ミ、黄昏、帰宅。

十九日 好晴 牛馬共進会場付近散歩見物。偶、中島謹蔵氏ニ出逢ヒ、相携ヘテ三階楼ニテ午餐ヲ共ニシテ、帰宅。此夜、山田水亭ニテ修道会開催セシニ付、臨席。夜半過、帰宅。

二十日 好晴 此日、古江村曳野氏ヨリ招待セシニ付、矢田□氏ト同伴、往訪。懇篤ナル待遇ヲ蒙リ、遂ニ翌日ニ至ル。但、此招待ハ春子成婚后ノ初招ニテ、同家々族并親戚ト初対面ノ挨拶ヲ為シタリ。□

□□

廿一日 前晴後陰 夕刻、古江邨ヨリ帰宅。矢田氏一泊。

廿二日 同前日【上欄外朱①】 午后、佐藤氏訪問。小酌ノ饗応ニ預リ、更ニ向坂氏訪問。夜ニ入り帰宅。【上欄外追補「此日神戸楯野秀雄氏来訪」】

廿三日 小雨【上欄外、】 中原永江真澄氏訪問。帰途、足立氏方ニ立寄、一曲復習。(三井寺)

廿四日 陰 此夜、成瀬岩太郎氏招待ニテ、廣田水亭土才ノ晚餐会ニ出席。十時過、帰宅。

廿五日 晴【上欄外、】 午前 京店、今田、出□并小泉、有本氏ヲ歴訪シテ、正午、帰宅。黄昏、松田琴譚来訪。

廿六日 晴 早起。四方氏訪問。齒ノ治療ヲ受ケタリ。午后二時、島根県教育会ニ出席。

廿七日 晴 終日教育会ニ出席。此夜、同会招待ニテ、臨水亭ニテ開催ノ懇親会ニ出席。

廿八日 晴【上欄外、】

廿九日 陰后雨 午后、永江真澄氏ヲ外中原寓居ニ訪問。囲碁ニ時ヲ移シ、夜半帰宅。

卅日 陰雨【上欄外、】 午后、森、青柳訪問。并目次氏ヲ学校ニ訪問シテ、帰宅。

三十一日 晴 天長祝日ニ付、雑賀小学拜賀式ニ参列。

十一月

一日 晴

二日 雨 郵便局長平塚氏来訪。

三日 曇【上欄外、】 此夜、春子夫妻来訪。(日雇今次郎使用)

四日 曇 図書会社ノ件ニ付、久保田氏来訪。○(日雇全上)

五日 曇 ○(日雇全上)

六日 小雨 午前、目次氏ヲ学校ニ、久保田竹氏ヲ其宅ニ訪問。夫ヨリ、森氏ヲ訪問シテ、帰宅。午后、永江真澄氏来訪。囲碁ニ時ヲ移シ、夜ニ入り、辞去。(日雇全上)

七日 陰 午后、散歩旁、外出。芳子越【をか?】郵便局ニ訪問シ、

帰途、堅町河本支店ニ至リ、芳蔵氏配偶者ノ件打合置キタリ。

八日 陰 后稍晴、

九日 陰【上欄外、】 目次氏ヲ技藝学校ニ訪問。

十日 寒風小雨 此夜、吉邨繁夫氏来訪。

十一日 寒風降雨

十二日 曇

十三日 好晴 用弁ノ為、京店殿町邊迄外出。

十四日 降雨【上欄外、】 軍人待受ノ為、終日配慮準備セシ甲斐

ナク、投宿セス。失望大笑。

十五日 曇時々小雨 此朝、曳野夫婦ト吉邨大尉ヲ招キ、朝餐ヲ供ニシタリ。

十六日 好晴

十七日 曇天 持田邨、永原芳子等来訪。持田氏一泊。

十八日 陰晴不定小雨 春子方訪問。

十九日 陰晴不定如前日 終日、臥床静養。【上欄外追補】米国ヨ

リ、九月四日認メ信書、本日到達。

二十日 好晴【上欄外、】 終日静養。(大工田根要次郎使役)夕刻

父来。

廿一日 晴 永江真澄氏来訪。河本氏ノ件打合セテ、辞去。夫ヨリ、外出。桑原羊次郎、錦織芳諸氏訪問。帰途、鶴島氏往訪。中沢渡伯手

続ノ件ヲ頼ミ置キタリ。(大工田根要一人)

廿二日 晴雨不定 (大工全上)

廿三日 曇 小雨【上欄外、】 ×

廿四日 晴雨不定 (大工全上)

廿五日 晴 坂井友義、黒住鉄太郎両氏来訪。(大工 田根 日

雇今次郎)

廿六日 晴 午后二時ヨリ、城山ニテ開催ノ休戦祝賀会ニ出席。

此日、成相氏ヲ山本銀行ニ訪フ。(大工一人 日雇一人)

廿七日 晴 (大工一人)

廿八日 晴 午后、目次氏ヲ学校ニ訪問、帰宅。

廿九日 晴 風無シ

卅日 陰

十二月

一日 晴 午后、散策。臨水亭ニテ開催骨董店參觀。

二日 小雨 久保田竹次郎氏来訪。

三日 風雨

四日 穩晴

五日 半雨半晴

六日 晴 石橋喜市氏来訪。

七日 晴 此日、例年通り年通、煤拂ヲ為シタリ。雇人、今次郎、

久太郎、おま起三人、晚餐ノ際十銭ツ、祝儀ヲ恵與シタリ。

八日 半晴半陰 雪意アリ 風寒シ 今次郎一人雇人、前日残部并

邸内外掃除セシム。午后、鶴島氏ヲ裁判所宿直室ニ訪問。中澤氏渡伯

手続書類ヲ托シ、夫ヨリ黒澤氏訪問。晚餐饗應ニ預リ、久々ニテ快酔、

帰宅。

九日 時々降雪 寒氣甚シ 此夜、曳野氏方ニテ晚餐ヲ共ニシテ、

帰宅。米国ヨリ送付ノ時計到達。其披露ノ意ヲ含メリ。

十日 陰 寒氣甚シキコト如前日。

十一日 寒雨 ま起事、木次石橋老母三年忌、来十三日ニ付、準備

手傳ヲ兼、此日、午前二番汽車木次へ出浮。此夕、黒澤氏長男弘靖氏、朝鮮龍山聯隊入営ノ為、留別宴ニ招待ヲ受ケ、參席。十時過、帰宅。十二日 時々寒雨 孫女婿曳野氏風邪ニテ休養ト聞キ、直ニ慰問。更ニ夜間訪問。勝部醫師診察ニテハ、輕症ナリトノ事、稍安神。黒沢氏此夜出発。見送タリ。

十三日 天候前日ニ同シ 感冒気味アリ。午前中、臥蓐静養。午后、起床。楼上炬燵、此日始テ開キタリ。

十四日 晴雨不定 寒風甚シ。

十五日 寒雨 此夜、石飛旅館ニテ、剪淞吟社開會ニ付、出席ノ予定ナリシモ、風邪気味有之。静養欠席。

十六日 晴 横山耐雪來訪。午餐ヲ饗シ、暫談話后、辞去。此日、米國ヨリ千代子信書到達。山寄庫助帰松。來訪、宿泊。

十七日 寒雨 山寄配偶者之件ニ付、目次氏為使、黒沢氏ヲ病院ニ訪問、依頼シタリ。此夜、鶴島定一氏來訪。今岡氏依頼件、取扱添書類、回附セリ。西川□□氏來訪。

十八日 晴

十九日 小雨 山寄氏波根村ニ帰省。

廿日 小雨后晴

廿一日 陰晴不定

廿二日 天候如前日 山寄氏配偶之件ニ付、黒澤氏ヲ其宅ニ訪問。不在、面晤ヲ得ス。坂井友義氏方ニ立寄、談話ニ時ヲ移シ、遂ニ午餐ノ饗應ニ預リ、三時過、帰宅。(米國為替此日入手)

【上欄外追補】○此日大工田根使役。

廿三日 東北風ニテ降雨 午前松本寿【?】之助方ニ立寄、暫ク談話後、黒沢氏ヲ病院ニ訪問。山寄氏ノ件ヲ委嘱シテ、帰宅。旧舎生小

林利一郎氏來訪。其実弟寛三郎氏、横浜正金銀行員トシテ、紐育詰トナリ、赴任ヲ為ニ付、矢田氏ノ關係上挨拶ニ來レリ。依テよう加ん忒棹包ヲ托シ、且松江駅ニ見送りタリ(后八時發)。

【上欄外追補】○大工田根使役。

廿四日 曇 午前、市役所并山本銀行ヲ歴訪シ、夫々用ヲ弁シテ、帰宅。此夜、高橋義比、黒沢鉄太郎兩人來訪。

【上欄外追補】○大工。

廿五日 陰晴不定 此夜、黒澤氏ヲ病院宿直ニ訪問。目次氏ヲ招キ、山崎氏配偶ノ件ヲ打、合セタリ。

【上欄外追補】○大工。

廿六日 好晴 此日、先君命日ニ付墓參。黄昏ヨリ、降雨。此日、例年通、餅搗。細田夫妻早朝ヨリ來リ、準備。午后過、結了。本年モ和菓之中ニ例年行事ヲ果セシコト、快感無限。此夜、目次氏來訪。

廿七日 又々降雨 午前、外出。諸用ヲ弁シテ、帰宅。午后、年頭狀ニ着手。此夜、目次氏福本幸子同伴、來訪。

廿八日 降雨 年頭狀準備ニ着手。夜十二時前、結了。其間、外出。諸用ヲ弁シテ、帰宅。此夜、目次氏來訪。山寄、福本結婚ノ下協議決定。

廿九日 雨雪交下 此日、迎年準備ニ奔走ノ傍、曳野軒宅ノ為メ、斡旋奔走。

卅日 曇 諸支払結了。此日、謙一郎一行帰省ノ筈ニ付、朝來待受ニ準備。汽車延着ノ為、夜ニ入り帰着。不取敢、蕎麦ヲ取寄セ、一同食卓ヲ囲テ、互ニ無事ヲ祝シ、一談一酌、午夜ヲ過キテ、就蓐。曳野夫妻モ出迎共ニ來テ、食事ヲ共ニ、鶏鳴、帰宅セリ。

卅一日 好日和 迎年準備略整頓。更ニ、曳野方見繕ヒ、帰テ其終

食ヲ共ニシテ、除夜ノ式ヲ挙ケテ、新年ニ入ル。謙一郎等一行并(下女同伴)残ラス帰来、迎年セシハ、初メテ故、特ニ快感ニ堪エサリキ。就テハ、京城啓次郎一行ニ聯想シテ、其隔居ノ遠キヲ、遺憾ト為スノミ。

〔附録〕

『剪淞詩文』第七編(大正七年十月 横山耐雪編) 抜書

【以下は村上琴屋の送別詩会における留別の詩】

剪淞吟社第四十一集詩 戊午七月廿四日四十八首

辞官去隱岐留別知友諸彦兼似剪淞吟社同人十律

琴屋 村上 寿夫

四嶋相依別一天。【以下略】

【琴屋の詩に耐雪らが次韻した詩】

次村上琴屋退休韻十律

耐雪 横山 大

烏角巾頭唯碧天。【以下略】

【耐雪(横山大)のこの詩の後に、春坡(渡邊新)、淞北(信太英)、桃蹊(渡部寛)、活処(田代習)、井蛙(井上留)、秋圃(中嶋謹)、秋濤(渡邊忠男)、回瀾(谷口為)、凌雲(松尾幸雄)の「全」詩が続く。括弧内は本名、または本名の略称。うち寛一郎の詩を以下に引く】

全 桃蹊 渡部 寛一郎

落落襟懷絶俗塵。才如碧玉世推珍。一行作吏留功績。十律題詩感鬼神。上仰聖慈爭就日。下承生意自成春。恪勤長奉分憂職。夢到蓴鱸亦有人。

【以下は参加者の陽韻の七言句を集めた柏梁体聯句】

戊午七月廿四日臨水亭送村上琴屋之東京柏梁体聯句

淞波瑟瑟淞烟長 横山耐雪 木蘭舟上動夜涼 田代活処

人間聚散夢一場 松尾凌雲 何堪送客臨河梁 井上井蛙

驪歌一曲湖山蒼 谷口回瀾 強歛猷酬飛羽觴 渡部桃蹊

定有客情易渺茫 中嶋秋圃 鱸魚美処是故郷 村上琴屋

【以下は分韻による各参加者の詩】

席上分焉得并州快剪刀剪取吳淞半江水為韻得州字

【この題の後に、活処(田代習)、琴屋(村上寿夫)、桃蹊(渡部寛)、回瀾(谷口為)、井蛙(井上留)、秋圃(中嶋謹)、凌雲(松尾幸雄)、耐雪(横山大)の詩が並ぶ。そのうち、寛一郎の詩】

得刀字 桃蹊 渡部寛

把酒尊前氣自豪。離筵半夜醉歌高。健毫剪取淞波碧。不要并州快剪刀。

【おそらく、この会か前後に寛一郎が琴屋に送った詩】

送村上琴屋為松平伯家令赴東京

百年天地一身輕。托迹名門亦是榮。義重焉辭新寵召。心虔宜答旧恩情。烟波墨水鷗眠穩。花木東台鳥語清。自有閑中公事在。逍遙得意結吟盟。

〔付記〕

本稿は、

科研費基盤研究(C) 研究課題／領域番号 22K00340 「近代漢詩

が形成する山陰地域の文化教養環境―漢詩人と官僚・政党政治家の交遊の分析」(期間二〇二二～二〇二四年度研究代表者 要木純一)

及び、

鳥根大学法文学部山陰研究センター 山陰研究共同プロジェクト

「近代山陰地域の文化教養環境における漢詩文の位置―若槻克堂

と剪湊吟社の学際的研究」(課題番号二二二二三 期間二〇二二二)
二〇二四年度 研究代表者要木純一)
による成果の一部である。

翻刻 渡部寛一郎日記5・II (大正七年七月～七年十二月) (渡部寛一郎文書研究会)

Reprint ; Diary of Watanabe Kanichirou: 1917-1919 (II)

Research Project on Works of Watanabe Kanichirou

[Abstract]

Watanabe Kanichirou (1854-1938) was an influential educator in Shimane prefecture and the head of the society in support of Wakatsuki Reijirou (Kokudoukai). Here we transcribe his diary written on 1917-1919. Through this diary we can perceive how Watanabe, after his retiring from teaching, made relationship with important persons of educational society and statesmen and beaurocrats. Also Watanabe made many contributions to the world of letters (including Kanshi) and devoted himself to Noh music in Sanin district.

Keywords: Watanabe Kanichirou, Taisho, Kanshi, Noh music, Sanin, Education, Politics